

編集 後記

本号では、総説、短報、公衆衛生活動報告、資料をそれぞれ1報ずつ掲載しております。総説では、妊娠中のヨガの有効性についての系統的レビューの結果、腰痛、ストレスや抑うつ感、分娩時疼痛の改善などの効果の可能性が示されました。妊産婦の健康増進・疾病予防としてのマタニティ・ヨガ推奨の根拠として、今後、介入内容や方法の標準化が検証されることを期待いたします。

短報は、健康保持・ストレス対処概念である sense of coherence を測定する尺度の日本語版について、全国調査による基準値が報告されていました。基準値が得られたことから尺度としての有用性が高まったと考えます。

公衆衛生活動報告では、国内感染症例が1945年以降報告されていなかった今年のテング熱の発生に対する行政担当者の経時的な対応が明確に報告されていました。今後、国内症例が報告された際の行政機関の対応の参考となる貴重な報告と思います。

資料は、高齢者の自転車運転中および自転車に起因した歩行中の事故について調査し、事故により傷害を負って通院した高齢者のうち、約7割が警察に通報していない潜在的傷害事故であったという興味深い報告でした。

調査研究である短報と資料は、いずれも所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されています。人を対象とする医学系研究は「疫学研究に関する倫理指針」および「臨床研究に関する倫理指針」に基づき実施されてきましたが、平成26年12月22日「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」として両指針が統合されました。研究・教育機関等では平成27年4月より新指針に沿った倫理審査体制がとられています。倫理審査申請に戸惑うこともあり、研究着手に時間を要する場合もあるかと思いますが、公衆衛生実践の発展につながる新指針に基づいた研究が蓄積され、論文として多数公表されていくことを期待しております。

(和泉比佐子)

次号予告 (第62巻・第6号)

原著

保健活動の必要性を見せる行動尺度の開発
.....岡本玲子, 他

研究ノート

都市部における新たな高齢者向け就労支援施設の
取り組み.....南 潮, 他

資料

歯科保健条例および歯科口腔保健法制定後の地域
歯科口腔保健推進体制の実態について
.....神光一郎, 他
市区町村における精神保健福祉業務の現状と課題
.....後藤基行, 他